

幸手市議会議員
本田ようこ〒340-0164
幸手市香日向3-10-16
TEL: 080-5137-4539**幸** **せ** **の** **手**

一般質問報告

どんな時でも、災害弱者を守りぬくためには・・・

幸手市では、災害対策基本法に基づき、幸手市地域防災計画に定められた条件に当てはまる方の名簿を作成しています。この名簿は、災害が発生したり、発生する恐れがある場合に、支援者（警察署・消防署・避難や救助等を支援する方）に提供することで、迅速な避難や救助に繋がります。

避難行動要支援者とは、災害時に高齢者や障がいがある方など、避難行動の際に支援を必要とされる方をいいます。

避難行動要支援者名簿の記載要件

- ①身体障がい者手帳1・2級の方
- ②療育手帳④・Aの方
- ③精神障がい者保健手帳1級の方
- ④75歳以上の一人暮らしの方
- ⑤75歳以上のみの世帯の方
- ⑥要介護3～5の認定を受けてる方
- ⑦上記の他支援を必要とする方

(幸手市地域防災計画より)



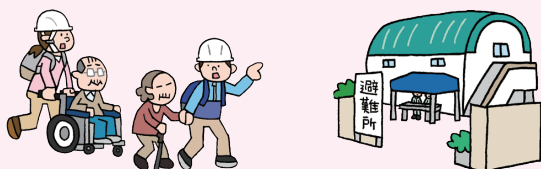
ここ2,3年の現状は下表の通りです。助けられる命はどのくらいあるでしょう。

年度	避難行動要支援者数	個別避難計画提出者数	情報提供同意者数
令和5年度	7,097人	3,346人	2,613人
令和6年度	7,860人	787人	606人
令和7年度	7,835人	486人	316人

幸手市の避難行動支援者の実態



全市民の**約2割**が避難できない避難行動要支援者です。また、個別避難計画提出者は5,6,7年度合計4,619人となり、同様に情報提供同意者数合計3,535人。つまり、**要支援者の4.5割**しか助けに行くことが出来ません。



本田が考えるには、情報提供同意者数が要支援者の半分も満たないのは、**個人情報**の**管理**の仕方等における不安と、**手続きの不明確さ**だと思います。この解決に次回の一般質問においても、続けて質問を致しますので、ご期待ください。

議会だよりが「SATTE GIKAI」に

先日、私も市民の皆様と同様に、初めて議会広報紙を見てびっくりしました。議員全員に対しての報告はありませんでした。今回視察研修に行かれ、すぐに成果をお見せしたかったのかも知れません。

議会広報紙は、議会でどのような議論が行われ、なぜその議決に至ったかなどを知らせ、開かれた議会を目標とし、市民の皆様読んで知っていただきたいものです。

これも、皆様の税金でつくられています。

公共交通と学校のバスについて思う

6月の定例会一般質問において、幸手看護専門学校の送迎バスに対して意見をいう議員がいました。

法改正により、送迎バス等の白ナンバー車両を地域住民の移動に活用する「共同運行」が可能になり、その送迎バス活用は学校の登下校時間や校区のルートがベースとなります。現在、市と調整中です。

さて、この件に関しては、乗車賃は取れません。看護専門学校のご厚意があつてのことをご存知か。ああすれば、こうすればは失礼な話と思います。

9月1日 防災の日

日頃の備えが命を守る

みんなで取り組む、安心な未来!!



防災 昔の常識・今の常識

昔の防災常識はああった・こうだった？
しかし、今は・・・非常識なんです。

1. 地震が起きたらすぐに外に飛び出るは・・・✕



玄関を開けて逃げ道を確保して様子を見る。すぐに外へ出ない。

地震が起きたらすぐに飛び出した方が良く、と言われるようになったのは、1978年に起きた宮城県沖地震です。その時に多くの建物が倒壊して下敷きになって亡くなった人が多かったため、すぐに外に逃げた方が良くという常識が広まりました。しかし、現代は新耐震基準になり、倒壊・損壊よりも、ブロック塀や看板・ガラス、屋根瓦などの落下物によりケガをする危険性の方が高くなっています。安易に外へ出ず、玄関を少し開けて逃げ道を確保し様子を見て下さい。大きな揺れではドアがきしんで開かなくなる事があります。



2. 地震が起きたらテーブルや机の下・トイレへは・・・△

ほとんどの家屋が耐震性の低い木造住宅だった時代から言われていますが、現代の住宅事情では正解とは言えません。家具や落下物から頭部を守りつつ、移動できれば家具のない廊下や玄関付近に移動するのが正解です。家庭では家具等が倒れてきたり、ガラスが散乱したりで退路を絶たれてしまう事があります。しかし、咄嗟の場合の身の安全を確保するためにテーブルの下は完全にNGではありません。状況判断です。トイレは揺れを感じたらすぐにドアを開放しないと枠の歪みなどで閉じ込められる危険があります。



3. 揺れたら、すぐに火の始末。ガスを止めに行くは・・・✕

1923年9月1日の関東大震災で大火になった事から言われ、現代でも言われていますが、キッチンには割れ物や重量物、刃物などが狭い場所に存在する地震の際に危険な場所です。熱湯や高温の油をかぶる可能性もあり、揺れている最中に入るのは危険。そもそも震度5以上だとガス供給には自動的に遮断する機能があります。眼の前であれば消すべきですが、あえてキッチンに入る必要はなく、揺れが収まってからでOKです。

主な3項目を挙げましたが、さらに命を守る情報をお知らせします

- ・家の中に大きめのボールやジャッキ・ロープを用意しておく。(家具の転倒・戸が開かない等を使う)
- ・消火器は台所以外に置く。(台所から出火した場合、台所に取りに行けなくなる)
- ・寝室にも運動靴やスリッパを置いておく。(寝室内の家具転倒やガラス粉砕で裸足では避難できない)
- ・非常持ち出し袋はなるべく玄関近くに置く。(すぐに持ち出せる用意のため)
- ・ヘルメットは家族分を用意する。(咄嗟時はナベでも良い。クッションとして頭にタオルや雑誌等を乗せて使う)
- ・台所のラップは常に用意する。(食器・スポンジ代用・怪我の包帯・束ねてロープの代用にもなります)
- ・カセットガスボンベの使用期限は7年、ガス器具は10年。(ボンベの底に製造日があります / ゴムが劣化)
- ・避難所へ行く場合は、スリッパや内履き靴を必ず持参する。(感染症予防のためマスクも用意してください)



速報 おめでとうございます 幸

令和8年度学校給食調理コンクールにおいて、幸手市立小中学校栄養士会チームが、「テーマ献立部門」で第1位となる『埼玉県・さいたま市教育委員会教育長賞』を受賞しました。



幸ヒカリのカレーピラフ/さっちゃんの幸セシチュー
権現堂の菜の花サラダなど

このたびの熊本地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

9月1日の防災の日を前に、今回の幸せの手でも防災・命を守ることの特集を組みました。是非、ご覧ください。そして、日頃から備えてください。少しでもお役に立てますように。

本田ようこ

